

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 「知事と語ろう 郷学郷就県づくり」

日時 平成29年1月25日（水） 午後2時30分から15時30分まで

場所 長野県小諸高等学校 音楽棟2F 音楽ホール

目次

1 開会	P 2
2 校長あいさつ	P 2
3 音楽科発表	P 3
4 知事あいさつ	P 6
5 意見交換	P 8
6 知事総括コメント	P 19
7 閉会	P 21

【参加者】

長野県小諸高等学校（生徒、教諭）、一般県民 81人

長野県知事 阿部守一

教学指導課 教育主幹 西條浩章、主任指導主事 浅井秀俊

1 開 会

【広報県民課長 藤森茂晴】

皆様、お待たせいたしました。ただいまから「県政タウンミーティング」を開催いたします。意見交換までの進行を務めます、私は、長野県広報県民課長の藤森茂晴と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の県政タウンミーティングですけれども、こちらの横幕のところにもございます「郷学郷就」について、生徒の皆さんや先生と意見交換を行ってまいります。「郷学郷就」とは、信州で学び続けていただきたい、そして信州で働き続けていただきたいという意味を含めた造語、つくった言葉ということになります。限られた時間ではございますが、率直なご意見やご提案をいただきながら、理解を深め、ともに考える機会にしたいと思っております。

なお、本日の意見交換の内容は、お名前などの個人情報を除き、後日、県のホームページで公開させていただきますので、ご承知おきください。

また、本日は取材の関係で報道各社もおられます。大変恐縮ですが、皆様の中で、取材の映像等について支障のある方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。よろしいですか。

県からは阿部知事と、公立学校を担当しております、教育委員会の教学指導課の職員がまいっておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日は手話通訳をお願いしております。

長野県では、昨年3月、手話言語条例を制定いたしました。障がいのある方もない方も、互いに支え合いながらともに生きるために、誰もが手話に親しみ、手話に対する理解を深め、手話が広く日常生活で利用される県を目指しております。

それでは、これからおおむね1時間の予定で、意見交換に入ってまいります。開会に当たりまして、当小諸高等学校の大田一昭校長先生からごあいさつをいただきます。

2 校長あいさつ

【大田校長】

小諸高校の校長の大田でございます。今日は、阿部知事、ようこそいらっしゃいました。阿部知事とこの本校でタウンミーティングができるということは、本校の喜びと感じているところでございます。

本校の特徴を幾つかご紹介いたします。本校は創立110周年を昨年行いました。今年は

111年と、歴史のある伝統校でございます。この間、地域に根ざした、地域から支持された教育を展開してまいりました。特に今年、昨年と、学力向上、進路成就、こういう取組が盛んになったと感じております。

今年、新たに学校で掲げたスローガン、「輝く未来 掴むのはキミだ！～伸びしろ無限大～」。この「伸びしろ無限大」という言葉に、私は非常に感銘しているわけでございます。可能性を信じて高みを目指す、こんな取組を展開していることをまことにうれしく思っております。

さて、クラブ活動もしっかりとございまして、ほとんどのクラブは県大会に、そしてレスリング、全国トップの実力でございます。また、吹奏楽は、毎年のように東海大会に駒を進めております。

さて、本校の特徴は、何といたっても音楽科でございます。音楽科についてご紹介をして、ごあいさつにしたいと思います。県内唯一の音楽科で、先ほども知事さんにお話ししましたが、21年目を迎えております。年々力をつけて、90%が大学・短大、音楽系の関係に進んでいる。さらには、直近の4年間では芸大にもたくさん入っていると、こんな特徴があるわけでございます。

昨年の12月に、音楽科で初めて海外研修をさせていただきました。長野県が、一昨年、オーストリアと連携したと。阿部知事がオーストリアに出向いたという話を聞いておりますが、そこで下地をつくっていただきまして、本校の海外研修が実現いたしました。本当にありがとうございました。

生徒18名と職員2名、現地のウィーンで生の音楽に接したり、あるいは向こうの一流の先生からご指導いただく、こんなメニュー。そしてウィーンのギムナジウムという学校と姉妹提携の調印式をやってまいりました。隔年で行ったり来たりと、こんな取組ができればいいなとそんなふうに期待しておるところでございます。

これが向こうの校長先生と取り交わした調印書でございます。このときの内容は、生徒のほうから発表がでございます。ゆっくりお聞きいただければと思います。

それでは、私のあいさつは以上にいたしまして、本校の音楽科の生徒、ウィーンに行った生徒に発表をしていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

3 音楽科の発表

【進行役生徒】

本日は、お越しいただきありがとうございます。このたびは、阿部知事を初め多くの皆

様方のおかげで、大変有意義な研修に参加することができました。それでは、早速ですが、最初にウィーン研修旅行で何を行い、そして何を学んできたのかを報告発表したいと思います。

【生徒】

私たち、小諸高校生18名は、自分自身の夢のため、ウィーン研修旅行に臨んできました。その報告をこれからさせていただきます。

初日は、ウィーン市内を観光してきました。まず最初に行ったのは中央墓地です。中央墓地には、ベートーベン、ブラームスなどの偉大な音楽家たちのお墓がありました。そして私たちは、近くにあるお花屋さんで一輪の花を1、2本買い、お供えさせていただきました。実際にお花をお供えして、これから作曲家のことを考えながら演奏していこうと思いました。

次にシェーンブルン宮殿に行ってきました。シェーンブルン宮殿は、かつてマリー・アントワネットが滞在していたハプスブルク家の夏の離宮です。そこに私たちは入ることができました。日本では見られない宮殿の中を見ることができ、うれしく思いました。

初日、最後に訪れたのは美術史博物館です。美術史博物館は、世界で最も豊かですぐれていると評判の高い博物館です。この博物館には、よく教科書で見かけるマリー・アントワネットやルーベンスの大作などの絵が飾られていました。芸術である美術の絵や画家についてたくさん学んだことは、私たちの音楽にも生かされていくと思います。

【生徒】

2日目には個人レッスンがありました。個人レッスンでは、18名一人一人が先生と1対1でレッスンしていただきました。ウィーン国立音楽大学の教授やウィーントーンキュンストラ管弦楽団第一コンサートマスターなどの偉大な先生方に指導していただきました。一人一人がレッスンに対する気持ちは強く、このレッスンで多くの刺激を受け、上達していくのではないかと確信しています。

個人レッスンの後には、オペラ鑑賞をしてきました。「マクベス」というオペラで、原作はシェークスピアが書いたお話です。「マクベス」というオペラは、声楽家誰もが憧れるオペラで、私たちが見るのに適したオペラでした。何もかもが勉強でした。演出、歌など、見るもの、聞くもの、全てが本物でした。

【生徒】

3日目は、ウィーンの音楽学校ムジーク・ギムナジウムと交流をしてきました。まず授業見学をさせていただきました。ウィーンはドイツ語なので何を言っているのかさっぱりわかりませんが、時々わかる言葉がありました。音楽は世界共通ということを実感しました。

次に日本の小学生の高学年くらいの生徒さんと交流会をしました。そこでは、日本、小諸のことや、「姨捨山」というお話をプレゼンテーションしました。代表生徒のソロ演奏、そして私たちで「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を歌わせていただきました。

最後に、本校の大田校長先生とギムナジウムの校長先生で握手を交わし、来年行われる長野県総合文化祭への招待や、高校生の交流についての約束を結び、この交流会の幕を閉じました。私たちが歌の発表をしたり、ソロの演奏が終わったとき、生徒の方たちがすごく喜んでくれたので、私たちは交流会ができてよかったと心から思いました。

【生徒】

3日目と4日目で2つのコンサートを鑑賞してきました。まず3日目は、ウィーン交響楽団のコンサートです。すばらしい会場、すばらしい演奏者がそろったコンサートでした。最初の音から引き込まれました。今まで聞いたことのない音楽を聞くことができました。

4日目のコンサートは、日本ではあまり聞くことができないウィーンフィルハーモニー管弦楽団の公開リハーサルです。こちらの演奏は、ずっと耳に残り続ける演奏でした。ウィーンフィルは、誰もが憧れる管弦楽団です。ニューイヤーコンサートで見るウィーンフィルの演奏を生で聞いたことは、必ず私たちの力になると思います。

ウィーン研修旅行を終えた今、私たちは必死に練習に励んでいます。この経験が無駄にしないように、貴重な経験をしてきたので、それを意味のあるものに変えていけるよう、日々頑張っています。研修旅行に行った私たちは、ともに助け合い、競い合い、夢を追いかけていきます。これで報告を終わりにします。

【進行役生徒】

続いて、今の報告発表の中でもあった、ギムナジウム内でのプレゼンテーションをここでも実際に行いたいと思います。僕たちは、ウィーンでの基本的な生活ができるよう、アイザック（I S A K）との交流や英語の学習などをたくさん行ってきました。その学習を生かして、ウィーンではドイツ語・英語で発表しました。今日もそのときと同じように発表したいと思います。1年生は日本の文化を、2年生は日本の昔話を発表します。それで

はお聞きください。

(プレゼンテーション1：日本の文化についてドイツ語・英語で発表)

(プレゼンテーション2：日本の昔話についてドイツ語・英語で発表)

【進行役生徒】

ありがとうございました。おかげさまで私たちは本場の音楽を学び、伝統あるクラシック音楽を全身で感じることができました。その成果は、これからのさまざまな音楽活動で生かしていきたいと思っています。

最後にウィーンでのレッスンを生かし、代表生徒が演奏します。メンデルスゾーン作曲「バイオリン協奏曲第1楽章より」、それではお聞きください。

(代表生徒バイオリン演奏)

【進行役生徒】

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

【藤森広報県民課長】

どうも発表ありがとうございました。それではここで、阿部知事からごあいさつ申し上げます。阿部知事、お願いいたします。

4 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

改めまして、皆さん、こんにちは。(手話で)「私は、長野県知事の阿部と申します。よろしくお願いいたします。」

さっき紹介があったように長野県は手話言語条例をつくっているのです、ぜひ、みんなも興味を持ったなら、ちょっとでもいいですから、簡単なあいさつ、「こんにちは」でもいいですし、「おめでとうございます」でもいいですし、「ありがとうございます」でもいいのです、何か覚えてもらえると、聴覚障がいの人たちがすごくうれしく思ってもらえるし、そういうところからコミュニケーションできるので、ぜひ皆さんもよろしくお願ひします。

まず最初に、今日は、大田校長を始め小諸高校の皆さんには、私たちをこのように温か

く迎えていただきまして、ありがとうございます。そして、音楽科の皆さんのウィーンでの発表、それから先ほどの大変すばらしいバイオリンの演奏を含めて、皆さんの日ごろの取組、活躍ぶり、ご紹介いただきまして、大変ありがとうございます。

今日は、この後、なるべく皆さんと対話をしたいなと思っているんですけども、さっき司会からも話があったように、長野県、今、新しい総合5か年計画をつくり始めています。今年で今の「しあわせ信州創造プラン」という計画が最終年度になり、これは平成29年度が最終年度になるので、平成30年度から県の新しい計画、ビジョンをつくって、県民の皆さんと一緒に進めていこうと思っています。

何といっても、私の一番の問題意識は、若い人たちが長野県に住み続けてもらえるようにする、あるいは、一遍、県外へ出ていってもいいですけど、またちゃんと戻ってきてもらえる、そういう県にどうすればなるのかなと。そこが一番大きな課題です。大体8割以上、大学へ進学するときみんな県外へ行っちゃうんですね。戻ってくる人たちの割合は、そのうちの4割ぐらいで、せっかく長野県で育っても、あんまり居着いてもらえてないなと思っています。

私は東京で生まれて、小諸に家をつくって、今、暮らす形になってはいますがけれども、ぜひ、長野県で生まれ育った皆さんには、ぜひ、長野県に居続けたいと思ってもらえるような県にしたいと思っていますし、もちろん海外とか、県外で活躍してもらおう人たちの足は絶対引っ張りません。むしろ応援しますけれども、でもやっぱり魅力がある地域にしていかなければ、今、長野県、移住したい県ナンバー1ですけども、移住してくる人たちも、そのうち長野県じゃなくてほかへ行っちゃいたいという人も出てくるかもしれないし、何よりも生まれ育ったふるさとにもっと居続けたいなというふうに思ってもらえるような県にしていきたいと思っています。

それには、若い人たちがどういう地域に暮らしたいのと、どういう長野県だったら楽しいと思えるのか、どういう小諸市だったらワクワクするのか、そういうことをぜひちょっと今日は率直にお聞きしたいと思って伺いました。ぜひよろしく願いいたします。

それから、ちょっと最後に1点だけ、音楽科の皆さんにさっきプレゼンしてもらって、ウィーンでの活動の状況はすごくよくわかりました。私もウィーンへ行って、楽友協会へ行って、長野県と楽友協会、もっともっと交流をしっかりと連携していきましょうという覚書も締結をさせていただきました。ぜひ、今回、ウィーンに行った皆さんには、今回のウィーン訪問をきっかけに、多分、いろいろな気づきとか、得られたものがあると思いますので、それをぜひどんどんこれから生かしていってもらいたいなというふうに思いますし、また、皆さんからもちょうとご意見をいただきながら、これからのオーストリア、あるい

はウィーンと長野県との関係も、もっともっと強化をしていくように取り組んでいきたいと思っています。

長野県は、文化行政、文化芸術に力を入れていきたいと思っていますし、それからオーストリアとは、この文化芸術の交流に加えて、観光、さつきスキー場のプレゼンもしてもらっていたみたいですけど、観光も、オーストリア、素晴らしいスキー場いっぱいあるし、あるいは自然エネルギーの普及拡大という面でも、オーストリアの取組には、私たち長野県にとっても参考になるし、逆に長野県の環境保全の取組はオーストリアの人にとっては参考になる部分もあるんで、そういう意味でもどんどん交流を深めていきたいと思いますので、ぜひ皆さんもウィーンとの交流をこれからも、個人的にも、ぜひ大田校長にも、学校同士も、大切にしていってもらえればうれしいなと思います。

ちょっとあんまり長く話すと時間がなくなっちゃうんで、冒頭のあいさつはこれくらいにします。よろしく願いいたします。

5 意見交換

【藤森広報県民課長】

それでは、この後、生徒の皆さんと先生方と「郷学郷就」について意見交換を行いたいと思います。準備が整い次第、始めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、準備が整ったようですので、県からは阿部知事とともに教学指導課の西條教育主幹、浅井主任指導主事も参加いたします。それでは、意見交換の進行は進路指導主任の先生にお願いしたいと思います。

【進路指導主任教諭】

それでは、今、お話しいただきました意見交換ということで、よろしく願いします。それでは、時間もあまりありませんけれども、せっかくの機会ですので、生徒の皆さんからいろいろな意見を聞けるような場にできればということで、最初に資料のほうを用意させていただきました。話し合いの準備ということで資料をちょっとごらんいただいて、簡単に本校の進路状況と、それから「郷学郷就」に関する部分、お話をさせていただきたいと思います。それでは資料をごらんください。

最初のところ、「伸びしろ無限大」という言葉ですが、これは本校のスローガンになります。高校3年間の中で生徒がどれだけ成長できるかということをやテーマにしています。また、今年度の小諸高校の進路係のスローガンとしては、「第一志望合格を徹底的にサポート

する」ということで、3年生の進路実現というものを目指してまいりました。

まず、3年生なんですけれども、今日から最後の試験で、10日前には大学入試センター試験が終わった生徒も多く、志望校に向けた準備を続けている生徒もたくさんいる、そんな現状があります。

資料のところなんですけれども、まず左上のところをごらんください。ここ3年間の進路状況になります。その中でごらんいただきますと、同じような傾向が、昨年、一昨年と見られます。進学が約9割、就職が約10%、1割という、そういう状況があります。今年は、傾向として就職がやや減少しているという傾向があります。この辺について、就職担当の先生、本校の地元への就職状況について、ちょっとお話をいただければと思います。

【就職担当教諭】

今年度は、お手元の資料に11という数字がありますけれども、最新のところでは、昨日、内定も1人追加されましたので、12名決まっているんですけれども、そのうち11名が県内ということで、92%の県内への決定率ということになります。昨年度は、就職者、もうちょっと多くて、全部で24人いたんですけれども、この24人については、公務員が1名、県外へ出たのがいますけれども、残り23人が県内の関係ということで決まっております。

簡単ですが、以上です。

【進路指導主任教諭】

ありがとうございました。続きまして、資料をごらんください。今年の3年生ですが、進学希望者、これが増加しております。この傾向は2年生・1年生でも同様です。進学の中身を見ると、4年制大学、短期大学、医療看護系専門学校への進学希望者が増加しています。一方で、医療看護系以外の専門学校への志願者が減少しているという状況があります。

郷土で学ぶという観点から見た場合、短期大学と医療看護系専門学校への進学希望者、この県内決定率は非常に高く、逆に4年制大学と一般専門学校への進学者が、県外へ行く傾向が非常に多いという結果が見られます。小諸の場合、この地元という範囲ですが、おおむね東北信地域というふうに考えられるかと思えます。

続きまして、左下です。これは、本校で今年度実施した進路行事の抜粋になります。補修等の内容は抜きまして、その他、主な企画のこのコンセプトというのは、長野県の内外の大学教育をバランスよく研究するということ。そして、東北信の新しい公立大学を中心に、経済的負担の比較的軽い近隣の大学、そうしたものを研究していくということをテー

マにいたしました。

特に今の3年生が公立化の1期生となる長野大学と、2年生が1期生となる新県立大学に関しては、生徒の情報収集をする機会として、学校独自の企画を行いました。具体的には11月、それから12月に当たります。

右上をごらんください。資料、どんどん先に進んでいきます。右上の資料ですが、これは現3年生の現時点での県内進路決定先です。(進路決定状況の説明(省略))

資料の右下、ご覧ください。長野県の持つ地域としての魅力、それから経済面等を考慮して、長野県で学びたいという生徒はたくさんいます。しかし、現実に隣接県にも魅力のある大学がたくさんあります。一つ心配なのは、やはり長野大学が公立化することによって入試が難しくなるかなと。それから県短というのが非常にこう伝統的に根強い人気があったので、ここを目指していた学生というのが、これからどんな進路選択にしていくのかというようなあたりは、非常に今後のポイントになるところかと思います。

それでは、今日、午前中、テストを終えた3年生にも何人かここに来ていただいているので、ちょっと3年生のほうから、少し意見を話してもらおうかと思います。まず、長野大学への進学を決めましたAさん、いいですか。Aさんは、どのような観点で進学先を決めて、将来についてどのような夢を持っていますか。

【生徒Aさん】

私は、最初、進学先として県外の、首都圏の大学を希望していたんですが、長野大学の公立化が決まり、県内でも刺激的な学習ができるとわかったので、県内の進学を決めました。将来の夢は、まだ決定していませんが、広く活動できる分野に進みたいと考えています。

【進路指導主任教諭】

はい、ありがとうございました。それでは、今度、県外ですね。高崎経済大学に進学をするBさん、どのような理由で高崎経済大学の経済学部を選んだのか、お話ししてくださいませ。

【生徒Bさん】

私は、私の住んでいる周りがすごく大きな通りでも元気がなくて、それをどうにかしたいと思って、将来、金融関係の機関に勤めたいと思っていました。なので、高崎経済大学は、長野県の金融関係の就職率がすごく高いので、そこに進学を決めました。将来的には、

その地方の、長野県の活性化を図るために、地元に戻ってきて就職を決めたいと思っています。

【進路指導主任教諭】

はい、ありがとうございました。Bさんは佐久市の出身で、Aさんは御代田の出身ということで、近隣の地域ということになりますが。それでは、小諸市で小学校から高校まで小・中・高と過ごしたCさんにちょっと話を聞いてみたいと思います。国文学を研究するために、京都の同志社大学へ進学を決めています。Cさんはどのようなことを観点として大学選びをしましたか。そして将来についてはどのようなことを考えていますか。

【生徒Cさん】

僕は、小さいころから本を読むのが好きで、国語の授業も好きで、大学の学びたい分野を考えたときに、国語のことや日本語について詳しく学びたいと思い、同志社大学に入学することを決めました。ずっと長野県で暮らしてきたので県外に行くのは緊張しますが、自分の人生の中の一つの挑戦として頑張ってきたと思っています。

大学卒業後の進路は、自分もまだ明確な目標が決まっていないのですが、長野県は食べ物おいしいとか、自然に囲まれているとか、県知事がイケメンとか、いいところがあるように、ほかの県にもきっと、まだ自分が知らないだけで、素晴らしいところがあると思うので、ゆっくり考えていきたいと思っています。仕事について落ちついたら、長野県、過ごしやすいので、老後は長野県内で過ごしたいと考えています。

【進路指導主任教諭】

はい、ありがとうございました。今、3年生3人、ちょっといろいろな進路先が決まった子たちの話なんですけれども、阿部知事、いかがでしょうか。

【長野県知事 阿部守一】

どうも3人の皆さん、ありがとうございました。3人、それぞれ、県内の大学、県外の大学、いろいろありますけれども、私は、さっきも言ったように、県内に進学しようが、県外に進学しようが、みんなの希望がかなうように応援するのが私の役割だというふうに思っています。だけど、長野県の魅力を高めて、やっぱり長野で進学したい、長野へ就職したい、そういう人たちを片方で増やしていかなきゃいけないんで、そういうことを考えたときに、最後のCさん、イケメンってお世辞を使ってもらってうれしいけど、老後じゃ

ないと戻ってこない？

【Cさん】

まだ、やっぱり明確な目標がないのでわからないんですけど。戻ってこられたら、家族とかもいるので、戻ってきたいですね。

【長野県知事 阿部守一】

そうだね。何ていうか、京都も、私、いいところだと思うし、長野県ももちろんいいところだと思っています。例えば大学進学後、就職して、どういうところで働きたい？ あるいは就職しないで学者になるというのもあるのかもしれないけど、どう、その仕事と別だったら、どういうところで暮らしたいと思っているわけ？

【Cさん】

僕は、都会とかにも憧れた時期があったんですけど、都会でしばらくいると疲れちゃうので、やっぱり暮らしやすい、自然豊かで、休みの日とかはリフレッシュできるようなところで働きたいと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

リフレッシュできるようなところね、わかった。では長野県にしたら、戻ってきてね。

【Cさん】

はい、ぜひお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

あと、最初のAさん、近い長野大学だけど、ずっと長野県にいたい？それとも、いや、そんなことはないよと、大学を出たらどこかへ行きたいなと思っている、どんな感じ？

【Aさん】

大学生のうち長野県にとどまりたいと思っていますが、自分は海外に出たいと思っています。30代になったら戻ってこようかなとは思っています。

【長野県知事 阿部守一】

海外で何したいの。

【Aさん】

海外を飛び回るような仕事がしたいです。

いろいろなことを見て、そのことを何か生かせるような、体力もなくなってきたころに長野県で生かせればいいなと思っています。

【長野県知事 阿部守一】

ぜひ頑張ってね。英語とかは得意なの。

【Aさん】

コミュニケーションは得意です。

【長野県知事 阿部守一】

コミュニケーションは得意、語学ができなくても、コミュニケーションができちゃう場合もあるしね、ぜひ頑張ってください。

【Aさん】

ありがとうございます。

【長野県知事 阿部守一】

あとBさん。町に元気がないから元気にしたいって言うてくれていたけど、どうやって元気にしたいと思いますか。

【Bさん】

私の住んでいる場所が、昔話に出てくるようなものがあったりするので、最近、歴女とかはやっているじゃないですか。なので、そういうのを使って、観光客を呼び寄せられたらいいなと。

【長野県知事 阿部守一】

では、ぜひ、いろいろなアイデア出して、町を活性化させてください。

【Bさん】

頑張ります。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。

【進路指導主任教諭】

ありがとうございます。それでは、今日、2年生もかなりたくさんこの場に来ていただいているので、これから来年・再来年、2年生・1年生、進路の時期になっていきますが、せっかくの機会ですので、地元で学ぶというこゝろ観点で考えたときに、自分の進路を考えたとき、阿部知事さんに要望ですとか、あるいは質問ですとか、そういうことがある人は、ぜひ意見を出してもらえればと思います。もしあったら手を上げてください。はい、では。

【生徒】

「郷学郷就」というテーマがございしますが、今、「郷学郷就」というものを目指して、知事はどのようなことをなされているか、それをお聞きしたいです。

【長野県知事 阿部守一】

直球の質問をもらってありがとうございます。「郷学郷就県づくり」は去年から、長野県としてしっかり打ち出していこうということをやっています。「郷学郷就」って読んで字のごとく、ふるさとで学ぼう、ふるさとで就職しよう。長野県で生まれ育った子どもたちが、できるだけそういう希望をかなえられるように。もちろん、さっきも言ったように、県外とか海外へ出ていきたい、積極的に羽ばたきたい人たちの足は絶対引っ張らないですけども、出ていかざるを得ない人たちもいるわけですよ。

例えば長野県の大学の収容定員って、全国最下位なんですよね。18歳人口に対する大学の定員、47番目。だから、例えば同志社がある京都ぐらい大学があれば、わざわざほかの県へ行かなくて、長野県内に選択肢があるよねっていうふうになっていけば、多分、8割以上の若者が県外に出ていなくてもいいだろうと思っています。そういう意味で、高等教育の充実ということ、今、やっています。

県として直接やっているのは、来年、新しい県立4年制大学ができます。これ、わずかばかりだけど、大学の定員、ちょっと増えます。ちょっとその分、短大が減っちゃうので困るところもあると思いますけれども。それから、さっきの長野大学の公立化を初めとし

て、県内の私立大学が公立化したり、あるいは学部を増やしたりという動きがあります。そういう動きを県としても応援をしています。

それから、高等教育の振興全般をやっている中で、大学っていうのは、地域の産学官の連携の核にもなってもらっています。また、どんどん世の中は急速に変化しています。急速に変化している中で、今までと同じ仕事を同じようにやっていけば済むという時代では全然なくなってきているので、どんどんイノベーションを起こさなきゃいけないと。どんどんイノベーションを起こす核が大学だと思っています。そういう意味で、私は、大学は重要だと思っています。

そういう、産学官の連携とか、イノベーションを推進することによって、今度は産業をもっと元気にしていこうと。産業イノベーションの推進ということでやっています。長野県は、例えばものづくり産業のウエイトが非常に高いので、航空宇宙産業、南信のほうは、今、航空宇宙産業の国の特区になっていますけれども、そういう特区の指定を受けたり、そういうところに航空機産業が集積するのを支援したり、それで産業が発展することを応援しています。これ、航空機産業だけじゃなくて、環境・エネルギーとか、健康・医療とか、そういう分野での産業振興もやっています。

それから、さっきもちょっと観光の話をしてもらいましたがけれども、長野県は、県全体が観光地と言っても過言ではない県です。今、「観光大県づくり」ということをやっています。去年の外国人の延べ宿泊者数は100万人を突破しています。どんどん、ほかの県に比べて外国からの観光客が増えている状況です。ただ、まだまだこんなレベルじゃないなと私は思っているんで、そういう意味で、今、観光の振興にも力を入れています。

そういう意味で、「郷学郷就県づくり」って非常に幅広いので、話し出すときりがないですけども、一つはやっぱり高等教育。もちろん小学校・中学校・高校も大事だけど、長野県が比較的これまで弱い分野だった高等教育の振興。それからもう一つは、県内で働きたい若者を増やしていくための産業の振興、製造業、観光業、あるいは農業や林業も、これから成長産業として伸ばしていきたいというふうに思っています。そういうことを通じて、ぜひ若い人たちに長野県に目を向け続けてもらいたいなというふうに思っています。いいですか。よろしくお願いします。

【進路指導主任教諭】

ありがとうございます。ほか、2年生、どうですか。意見ある人、ぜひ出してください。

【生徒】

来年度から県短が県立大学へ変わることになっていますが、県短から4年制大学への移行で、県内出身者が進学しづらい状況はよくないと思うので、県短から4年制大学への移行措置をご一考お願いします。

【長野県知事 阿部守一】

県立短期大学を4年制化するときも、今の短期大学、非常に評判がいいから、もったいないねという話は、結構いろいろな人がしていました。私は、今までの県立短期大学は、県内に人材を輩出するのにすごく頑張ってもらえたというふうに思っていますけれども、さっき言ったように、今、高等教育の振興ということをやっている中で、やっぱり産学官連携の核となったり、あるいは長野県を発展させる「知の拠点」としての大学ということ、私、極めて大事だと思っています。そういう意味で、県立短期大学を4年制化することに決めました。これはもう来年やるんで、ちょっと、今、言われても止められないなというふうに思っています。

ただ、さっきから言っているように、高等教育全体の振興をやっていかなきゃいけないんで、もっともっと、私は長野県内に大学・短期大学、あるいは専門学校を含めて、学ぶ場というものの充実は取り組んでいきたいと思います。

君は何をやりたいの？ 将来。

【生徒】

管理栄養士です。

【長野県知事 阿部守一】

管理栄養士ね。管理栄養士になるんなら、新しい県立4年制大学に入ってもらうのが一番近道じゃないかと思うんだけど、どうなの。

【Eさん】

はい、目指しています。

【長野県知事 阿部守一】

ぜひよろしくお願いします。県立短期大学を4年制化することによって、短期大学を目指していた人たちからすると、ちょっと選択肢が逆に少なくなっちゃうところもあるかも

しれないですけども、健康発達学部をつくって管理栄養士の養成と、それから子ども支援の学科の部分は、これからも残して、さらに特色を出して、栄養士のところは管理栄養士の資格を取れるようにしますし、こども学科のところは、今、いろいろな地域で問題になっている発達支援の教育とか、あるいは長野県の特徴である「森のようちえん」、「やまほいく」、こうした部分にしっかりと取り組んでいくことができる人材を育てていこうと思っていますので、ぜひチャレンジをしてもらいたいと思います。

もう一つ、グローバルマネジメント学部のほうは、長野県の経済界ともしっかり連携をして、グローバルな視野を持って地域にイノベーションを起こせる人材をつくっていこうと思っていますので、ぜひ、皆さんにも、県立大学を一つの選択肢として考えてもらえればありがたいなと思いますので、よろしくお願いします。

【生徒】

ありがとうございました。

【進路指導主任教諭】

時間もあまりありませんが、他の人、いかがですか。2年生などで、もしご意見あれば、はい、ではお願いします。

【生徒】

音楽科の2年です。今、ちょうどここに音楽科の生徒がたくさんいるので、音楽科からの目線というのを少し話したいと思います。自分は、今、将来、プロの演奏家になって演奏活動をすごいしていきたいと思っているんですが、そのためにも、やっぱり自分としては、東京の音楽大学に行って、その後、日本の中で演奏活動をしていきたいと思っているんですが。そういう点に関すると、やっぱり長野県だと、音楽大学というものがまずないというのと、ウィーンに行かせていただいて一番感じたことが、ウィーンの町ぐるみで音楽をしているというのが、すごく印象的に残ったんです。やはりその点でいくと、長野県の中で音楽活動をしていくには、やはりまだあまり場所がないというか、音楽を発表できる機会がすごく少ないと思うのですが、音楽というのを発展させていくということに関して、どのようにお考えでしょうか。

【長野県知事 阿部守一】

とてもいい質問だと思います。みんなもウィーンへ行って感じたと思いますし、私も同

じような感想を持っているんですけれども、これまで日本の社会というのは、物の豊かさをうんと追求してここまでやってきたんですけれども、そろそろ、物はみんな行き渡っていますよね、大体。格差とか貧困の問題が別途あるんで、そこは考えなければいけないけれども、何ていうか、かつて私が子どものころに比べれば、今の皆さんが持っている物って相当増えていると思っています。物の豊かさが達成されたとき、やっぱり心の豊かさをどう実現し充実させていくかというのが、これからの社会的な課題だと、私、思います。そういう中で音楽って非常に重要だと思っています。

私は、県の文化振興事業団の理事長を、今、引き受けてもらっている元文化庁長官の近藤誠一さんといろいろお話しする中で、私が言っているのは、やっぱり、ウィーンとか見ていると、文化芸術が暮らしの中に入っているし、そしてそれが、皆さんみたいな芸術を志向する人たちが働く場にもちゃんとなっているわけですよ。実はそういう仕組み、そういう社会を日本でももっとつくらなければいけないだろうと思っています。これはちょっと、そんな簡単な話じゃないんで、すぐ実現できない部分もいっぱいあると思います。でも私は、文化芸術をなりわいとすることができる人たちをもっともっと増やしていきたいなと思っています。

バレエの二山君、いますよね、松本の。彼は、ローザンヌのバレエコンクールで優勝してから何度かお会いしているんですけれども、実は彼が就職活動しているときに、私、1回、会ったことがあって、どうして海外に職場を探しているのって聞いたら、やっぱり日本はほとんど働ける場所がないというふうに言っていました。ぜひ知事、そういう場をつくってくれと言われました。でも結局、ちょっと間に合わなかったんで、行っちゃいましたけれども。

ですから、そういう意味で、これ、バレエの世界に限らず、音楽だとかってもっといろいろな広い意味での芸術全般が、まだまだ社会の中に一体化してないし、またそういうことをなりわいとしていく人たちにとっては、ヨーロッパなんかと比べると、まだ日本のシステム、弱いなというふうに思っています。ぜひ、そういうことをしっかり念頭に置いて、今日、総合計画の議論の場でもあるんで、次の総合計画には、そういう視点も入れたいなと。そういう視点というのは、文化芸術が暮らしと一体となって、そういう文化芸術をなりわいとする人たちがもっと増える長野県、そういうものをぜひ目指していきたいと思いますので、ぜひ頑張ってください。

【進路指導主任教諭】

ありがとうございます。先ほどの資料の一番最後をちょっとごらんいただけますか。「郷

学郷就」ということで、地元で学んでという部分なんですけれども。やはり新県立大学、あるいは長野大学公立化等を考えたときに、県外からの受験生がかなり増えてくるだろうということが考えられます。したがって、学校としては、やはり生徒が自分の希望を実現できるように、学力を含めたいろいろな部分で力をつけさせていく、これが非常に大事なことかというふうに思います。

そしてまた、先ほど知事さんも言われましたように、学ぶ場、これがやはり長野県の中には少ないというふうに思われます。県内で学びたいけれども、例えばこれで社会科学系の学部は、東北信には私立大学が全くなってしまうので、そんな面。あるいは短期大学がこれで1つなくなってというようなことで、学ぶ場を増やしていただく、そういう環境整備のところをぜひお力を尽くしていただければというふうに期待します。

それで、高校生諸君には、いろいろな部分で自分がやりたいことをこう実現できるように一生懸命勉強すること。そのためには、地元をしっかりと見て、それからいろいろな広い世界を見て、そして将来、自分が社会に貢献できるその武器を身につけるために一生懸命勉強する。そういうそれぞれの役割を果たしていくことが大事なのかなというふうに思います。

今日、短い時間なんですけれども、いろいろ生徒のほうからも意見を聞いて、また知事さんのご意見も伺えてということで、ちょっと時間がないところなんですけれども、ぜひ感想を一言、阿部知事お願いします。

6 知事総括コメント

【長野県知事 阿部守一】

時間が短くて、みんな言い足りないんじゃないかと思えますけれども、総合計画をつくるときに、また学校で学生の皆さんの意見を出してもらえるようなことも考えてもらえるとうれしいなと思います。また、もっと夢を私は語ってほしいなと思って、こんな地域にしたいなとか、こんな働き方したいなとか、音楽科の皆さんだったら、こんな場所があれば私たち幸せだなとかね、そういうことを、どんどん出していただく機会をまた別途つくってもらえればありがたいと思います。

それから、もう時間なんですけど、もう一つ、今日、本当はもう少し時間があればお話ししようと思っていましたけど、18歳に選挙権年齢引き下がりました。私が大学生のころってほとんど政治に関心がなかったですね。なかったなんて言うと怒られちゃいますけれども。でもこれから、やっぱり皆さんにはぜひ政治にも関心を持ってもらいたいというこ

とだけ、ちょっと最後に一言だけ申し上げておきたいと思います。

私は、こうやって選挙で選ばれて知事にさせていただいているんですけども、私、自分が政治家になる、選挙に出るなんていうことは、少なくとも学生のころは全く思っていなかったですし、就職してからもそんなことは思ったことなかったです。そのころと今とすごく感じ方が違っていることがあります。選挙って、どっちみち何か私の1票ってあんまり変わらないじゃないのって、私、思っていました。多分、みんなもそう思っているんだと思います。でも結構違いますよ、違いますよというか、一人一人の1票って、やっぱりすごく重要です。選挙をやっていて、選挙運動をやっていて、頑張ると、あるいはこういうことが課題なんだと、私はこういう地域にしたいんだということを、県民の皆さん一人一人から伝えてもらっているから、私はやる気を出して、多少ちょっといろいろ大変なこともあっても、頑張らなきゃいけないなというふうに、力と勇気をもらっていると思っています。

そういう意味で、何か、みんな投票なんか行かない、選挙なんか関係ないよという感じの人たちが増えちゃうと、一つは、私たちは力がなくなっちゃうなということと、それから本当に少数の人たちの声で世の中が動いていっちゃうということになっちゃいます。ぜひ、これから投票、選挙権を得て、皆さんも社会にどんどんコミットしていく立場になっていくわけですけども、ぜひ、自分たちの社会は、あるいは自分たちの地域は、自分たちの力で作るんだということを、強く意識してもらいたいなと思います。

私は県民の皆さんと対話するときにもいつも言っているのは、あっち側、こっち側はやめましょうねと言っています。あなた、要求する人、私、要求を聞く人、それはやめましょうと言っています。何でかっていうと、県知事っていったって、できることには限界があります。私が右だって言って世の中が右になれば、世の中こんな簡単なことはありません。困っているお年寄りを助ける力っていうのは、私が県知事でやるよりも、むしろ隣の人たちが支え合ったほうがよっぽど効果的だし、心温まるサポートができると思います。

社会をよくしていくのは、行政も責任を果たしますけれども、県民の皆さん一人一人が社会をよりよくしたいと、そういう思いを持って、さっき言った総合計画、私は夢と希望を集めたビジョンにしたいと思いますけど、ビジョンを共有して一緒に進んでこそ、本当に皆さんの夢がかなうというふうに思っています。ですから、皆さんの夢をかなえるためにも、政治とか行政に関心を持って、積極的にコミットしていつてもらいたいなと思います。

もちろんいいことばかりじゃなくて、知事、こんなことやめちゃえと、おまえの言っていることはおかしいという批判でも構わないんで、無関心よりは批判のほうが世の中を

変えていく。批判で世の中を変えていくところもあると思いますけれども、無関心であることが、私は一番よくないんじゃないかと思っています。ぜひ、そういう意味でこれから世の中のことをしっかり学んで、地域をよくする、あるいは日本をよくする、あるいは世界をよくする、そうしたことに一人一人の皆さんが、一人一人は、私は、力は小さいと思います。力は小さいけど、決して力はゼロじゃないんで、ゼロは幾ら足してもゼロです。幾ら掛けてもゼロです。でもちょっとずつの力を合わせればすごい力になるということをごぜひ認識をして、これからの、社会に出る人、大学に行く人、いろいろいると思いますけれども、3年生の皆さんは頑張ってもらいたいし、まだ在学する人たちには、少しそういうことも考えながら、高校生活を送っていただければありがたいなと思います。

今日は限られた時間でしたけれども、皆さんからいい話をいっぱい聞かせてもらって大変うれしく思います。ありがとうございました。

【進路指導主任教諭】

ありがとうございました。それでは、時間となりましたので、以上で意見交換を終わります。それでは広報県民課さん、よろしくお願いします。

7 閉 会

【藤森広報県民課長】

進行ありがとうございました。参加者の皆さん、長時間にわたりありがとうございました。それでは、以上をもちまして「県政タウンミーティング」を終了いたします。